キャラクター名
新生 椿(にい・つばき)

プレイヤー名

シンドローム	モルフェウス モルフェウス	ワークス	鬼を狩る者C	カヴァー	古道具店店主
オプショナル		年齢	見た目30台	性別	F
覚醒	忘却	衝動	闘争	初期侵食率	33 %
出自	天涯孤独	経験	多忙	邂逅	師匠

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	2		0			2
感覚	4		0			4
精神	0	1	0			1
社会	2		0			2

HP	25
行動値	9
(非装備時)	9
戦闘移動	14
全力移動	28

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	4		射撃			ＲＣ	1		交渉		
回避			知覚			意志	1	1	調達	2	
運転：			芸術：			知識：古物	2		情報：鬼狩	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
日本刀	白兵	2r+5	4	10		いつもは《テクスチャーチェンジ》で扇子に見た目を変えている
	白兵	8r+5	4	20		(<100%)単体、装甲無視　侵蝕率+5
	白兵	9r+5	4	22		(≧100%)単体、装甲無視　侵蝕率+5

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
ウェポンケース	
蒔絵煙管(思い出の一品)	
情報収集チーム	
コネ：手配師	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
No.HR31　仲間(パートナー)	P	N		
「おじぃ」	P　懐旧	N　恥辱		
坂田 道治	P　感服	N　脅威		
デーモンドクター	P　同情	N　憤懣		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P:　8	残り財産P：　2

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
水晶の剣	5	4	メジャー	至近	参照	自動	-	
効果：武器をひとつ選択、シナリオ間選択した武器の攻撃力+[LV*2]、シナリオ3回								
ベネトレイト	1	3	メジャー	武器	-	対決	-	
効果：装甲無視、判定ダイス-1個								
サイコメトリー	1	1	メジャー	-	-	-	-	
効果：<情報：>判定ダイス+[LV+2]個								
C：モルフェウス	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果：C値-LV(下限値7)								
砂の加護	4	3	オート	視界	単体	自動	-	
効果：判定直前ダイス+[LV+1]個、ラウンド1回								
テクスチャ―チェンジ	1	-	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果：アイテムの外見を変化させる								
壁抜け	1	-	メジャー	至近	単体	自動	-	
効果：障害物を無視して移動								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

「持ち物を見れば、あんたがどんなお人かようわかります。人と違って嘘をつきまへんからなぁ」

洛中の外れにひっそりと佇む古道具屋、その店の奥で独り煙管をくゆらす年齢不詳の女主人。
それが「鬼狩り・新生 椿」の表の顔である。
昼間は薄暗い店の中、整然と並べられた雑多な品々に囲まれ何とは無しに日を過ごし、時折ふらりとどこかへ消えたかと思うといつの間にか戻っていたりするため、周囲の住人からは半ば妖怪扱いされているとかいないとか。
その実は最古参として鬼を狩る者の現場班を率いている班長……なのだが、鬼を倒すことより鬼狩りの無事を優先することが多いため、鬼に対して憎悪を抱いている者が多い現場班の中には不満を持っている者もいる様だ。
表でも裏でもどこか浮いているのだが、本人は全く気にしているそぶりはなさそうである。

―経歴―
物心ついた時には両親はおらず、古道具店を営む初老の男性(「おじぃ」と呼んでいた。本名は知らない)に育てられた。
彼は自分の事は一切語らなかったが、道具について様々な知識、修繕の技術などを教えてくれた。
彼女自身も「おじぃ」と共に、大切にされてきた道具たちに囲まれて過ごす生活を気に入っていた。
いつからだろうか、道具に触れるとそこに込められた人の思いのようなものを感じ取れるようになったのは。
「おじぃ」は、「付喪神の声」だと教えてくれた。
それは誰にでも聞こえるものじゃない。だから、そのことは誰にも言ってはいけない……と。

10の時、「おじぃ」は病気で死んだ。子どもだった自分は施設に放り込まれた。
無力な自分はすべてを喪った。だから自分で取り戻そうと思った。そのためにはどんなことでもすると心に決めた。
その後はただがむしゃらに独りで生きてきた――10年前までは。